

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 2日

事業所名 キッズ・レインボー

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	運動プログラムは庭でできるように工夫をしている。	利用者が中高生中心の日は、室内では狭い感じがあるが、体育館や市民プラザなどの施設を利用し運動プログラムを工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	発達や課題行動の分析ができる職員を配置している。	利用者の利用時間に合わせて、職員の配置数を高め、より充実した支援に努めている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	88%	12%	支援環境全般の構造化と、利用者の導線と視覚支援の工夫をしている。	生活空間を構造化し、わかりやすくするために視覚支援の活用をしている。玄関、トイレの段差は社会生活の訓練としてバリアフリーにしないで良いと考えている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	全職員で清潔な環境づくりの維持に努めている。コロナ感染対策には特に留意した。	長期休暇や土曜日のプログラムにそうじの時間を設定し、利用者に雑巾の使い方など指導している。衛生管理には十分気をつけ、活動にあわせて、柔軟な場面設定に努めている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	62%	38%	毎日の実践の振り返りシートを非常勤職員も記入して改善に努めている。	伝達事項が風通しよくできるように配慮している。また、できるだけ多くの職員が、業務改善に参加できるよう努力している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	アンケートの実施以外にも、モニタリングなどで、ご意見を聞き業務改善に努めている。	多くの意見が聞けるよう、いろいろな場面で、気軽に言いやすい雰囲気づくりにも気を配り業務改善につなげている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	自己評価結果を「門真市手をつなぐ育成会」のホームページに公開している。	改善できることを確実にを行う努力をこれからも続ける。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	62%	38%	第三者評価は受けていないが、大阪府が実施している事業所支援事業を受けている。	第三者評価の実施は、今後検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	62%	38%	研修受講者から伝達講習を受けるなど、職員の専門性の向上に努めている。	他の事業所も参加する会議などの情報も共有することで、実践力を高める一助にしている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	88%	12%	毎日の支援記録を共有しながら、具体的な行動をよりよく理解して、客観的に分析する力をつけるように努めている。	定期的に保護者から利用者の状況を確認し、必要に応じて外部の専門機関の指導・助言をいただいている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	50%	50%	標準化したアセスメントツールは使用できていないが、検査機関等の情報提供を受け、支援計画に活用している。	幼児教育、発達障がい教育・福祉の経験者、公認心理師などのアドバイスを、適応行動のアセスメントに活用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	62%	38%	ガイドラインに示された3つの領域から、それぞれの具体的な内容を計画作成している。	コロナ禍で、「地域支援」の領域の設定が困難でしたが、令和5年度は、以前の行事など取り組みができると思われる。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	88%	12%	役割分担と情報共有に基づき、計画・実践・評価を実施している。	視覚支援や声かけなどの支援の統一を課題としている。個々の特性と支援方法を会議などで共有している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	児発管が月予定を立案し、実行できるか相談し決定している。	同じテーブルでの会議に時間的制約がある場合は、児発管が意見などを聞きとり、プログラムに反映している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	新しいプログラムを組み入れると共に、同じテーマであっても進行方法を変えるなどして、教材や展開上に工夫している。	設定療育、学習、遊び、外出など、プログラムをいくつかのカテゴリーに分け、それぞれの中で多様化するなど、固定化しないよう工夫している。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	88%	12%	一人ひとりの特性を把握し、異年齢集団の良い面を活かすよう、絶えず意識して支援計画を作成している。	一対一の支援から小さな集団、さらに数名の集団へと子ども同士の関りを深めるように支援計画を配慮して作成している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	88%	12%	毎日の朝礼と終礼を最大限活用している。	打合せ後の変更時に、伝達漏れがないよう報連相に特に気をつけている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	88%	12%	朝礼と共に終礼を大切に、その日の支援や課題を職員で共通認識することに務めている。	終礼に出席できない職員にも、振り返りシートを毎日記入してもらい、支援の向上を図っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	88%	12%	全職員あげて記録をとることを重視し、意見交換などを通じて改善に努めている。	サービス提供記録票に書ききれない内容は、終了後に追記するなど情報共有と改善に努めている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	88%	12%	定期的にモニタリングを実施し、必要に応じてその都度柔軟に対応している。	支援目標は、成長、発達に応じて確認し、保護者のニーズと組み合わせ、変更を検討し見直している。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	75%	25%	主として、児発管が参画している。必要な場合は児童指導員の同席もしている。	臨機応変に他の職員も参加するように配慮している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	75%	25%	関係機関とは絶えず連携・情報交換している。	保健師や子ども園から利用者の紹介や問い合わせなどもある。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	0%	該当者はありません。	該当者はありません。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	0%	該当者はありません。	該当者はありません。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	75%	25%	該当児の子ども園と移行支援に関する情報共有を行っている。	保護者に対して進路に関する相談は、いつでも対応している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	88%	13%	該当児の進路先への情報提供はいつでも対応している。	進路先から情報提供の依頼があれば、面談の時間がとれていないが、書面での情報提供をしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	88%	12%	大阪府の事業所支援事業を受け、指導、助言をいただいている。	事業所支援の機会にはできるだけ、職員を参加させるよう努めている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	12%	88%	利用者同士の交流はありませんが、在籍園の見学に支援員がいくことや園の担任が様子を参観されることはしている。	活動時間が異なるため、交流行事はできていませんが、公園への外出などで一般の子どもたちと一緒に遊び機会はある。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	75%	25%	門真市児童発達通所支援事業所連絡会に参加している。	コロナ禍ではリモート会議もありましたが、積極的に参加し研修や情報提供を受けている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	75%	25%	連絡ノートを中心に、電話、LINEを活用し、情報共有を図っている。	共働き家族や片親家族が増え、家族支援に関わる内容への対応が多くなっている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	75%	25%	コロナ禍で面談を希望する保護者が少なくなり、専ら電話面談を中心に支援を行った。	心理師や家庭支援プログラムの有資格者を中心に、個別に対応し、保護者支援を一層進めていけると考えている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	88%	12%	利用当初の契約時に丁寧に説明し、その後必要に応じて補足や再確認にも留意している。	常に、丁寧に説明をしている。不明点など質問を必ず聞いて行うことを継続している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	88%	12%	利用者の様子をお話し、ご家庭の希望もお聞きし計画を作成している。その後、検討していただき同意を得ている。	少しでもご家庭との統一支援ができるように、情報共有をする必要性を感じている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	88%	12%	連絡帳を通して困りごとのついて問い合わせ、積極的にかかわるよう意識している。	どこまで関われるか、それぞれのケースによって配慮が必要になる。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	75%	25%	コロナ禍のため開催は中止していたが、門真市手をつなぐ育成会の行事に参加のお誘いをして交流を図った。	コロナ禍のため、交流行事の開催が殆んどなかったが、令和5年度からは実施していく予定である。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	75%	25%	いつでも対応できる体制を取り、相談等があれば迅速に対応している。	児発管を中心に、公認心理士なども加わり、関係職員も入って相談対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	88%	12%	ホームページや、親の会の会報等を通じて、情報発信に努め、保護者との連携に役立っている。	門真市手をつなぐ育成会のホームページに、定期的に掲載している。会報は2ヶ月毎に発行し配布している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	88%	12%	個人情報保護条例に則り、取り扱いには格別に注意している。	学校園とも個人情報保護の観点で、相互に情報を得ずらい課題はあるが、関係機関とは連携をしている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	75%	25%	事業所の特長からも、当然のこととして十分配慮することに努めている。	保護者からは、LINEでの連絡が多く、内容の確認のため電話をかけさせてもらい正しい情報を伝達している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	50%	コロナ禍で地域に開かれた運営は困難であった。	事業所が狭いため、地域住民を招待することはできませんが、お祭りなどに参加していく予定である。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	62%	38%	防災・防犯、発作、誤嚥、緊急蘇生法等のマニュアルを策定しているが、保護者にはコロナ禍のため資料を配布のみで詳細については周知していない。	マニュアルは策定しているが、実態に合った訓練の実施が課題である。訓練はしているが、利用者の理解ができていると実感できていないので、今後の取り組みを検討していく必要がある。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	62%	38%	市が指定する避難場所への移動の訓練は実施している。	利用者が施設の周辺地域の地理の理解を深めるため、近隣公園への屋外活動の機会に、目印となる施設等を説明している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	88%	12%	初回面談時に聞き取り、毎年プロフィールの記入を更新し確認している。投薬の変化がある時は、処方箋のコピーを取らせていただき気をつけている。	知らない間に投薬内容が変わっていることを、連絡いただけないご家庭がたまにあるので定期的に通院のある人には、事業所から検査や投薬内容を聞かせていただくようにしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	75%	25%	検査結果をいただき職員に周知し、クッキングやおやつの際に、気をつけている。	今後もアレルギーに対する聞き取りを正しく行い、医師の指示書(検査結果)に従い間違いのないように努める。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	88%	12%	事例検討を行い、ヒヤリハット事例の再発防止に努め、ファイルを作成し集積している。	日常的に健全に過ごせることと、安全・安心な環境づくりに最大限の配慮をしている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	88%	12%	虐待防止委員会を中心に、順次研修を受講すると共に伝達講習に努めている。	当事業所内で虐待が絶対に起きないように、職員全員に自己研修のための資料提供をしている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	88%	12%	現状ではいかなる場合にも、身体拘束をしないことを徹底している。	できるだけ複数の職員配置で支援にあたり、いかなる場合も身体拘束は行わない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。